

# 34 公益社団法人 日本駆け込み寺

□公開日時:平成 26 年 11 月 19 日(水)

□相談年度:平成 16 年度

人間関係

## 「兄貴分からのイジメに耐えられない」 ～苦悩する暴力団員～

- 仮名：Bさん
- 年齢：34歳
- 性別：男性
- 人間関係

### 【理不尽な上下関係に疲れて】

30代前半の他県の暴力団組員の話。この男性は全身に刺青を入れており、右手小指と左手小指は欠損していた。在籍していた組は解散になり、系列の上部団体に吸収されてしまった。新しい組では10代の少年などを集めた窃盗団を管理し、上納金を集める仕事をさせられていた。彼は、更にその上納金を毎月組の兄貴分に納めなければならぬ。その兄貴分というのが、同年齢の男。見た目は暴力団っぽくなく、ピシッとスーツで決めて現代風といった感じらしい。その兄貴分に、この男はアゴで使われていた。例を挙げれば、クルマの前で立たせて長時間待たせる。タバコに火を着けさせる。事務所の掃除をさせる。兄貴分の女の世話までさせる。ハッキリ言ってイジメである。いくら兄貴分とはいえ、経験は自分の方が長い。男性は、いつ捕まるかもわからない窃盗団の管理という仕事が嫌だったことと、新入りの組員がやるようなことを同年齢で経験の浅い人間に命令されることに耐えられなくなっていた。ある日男性は、あまりの理不尽さから我慢の限界に達し、その兄貴分に抗議した。だが、兄貴分は馬鹿にしたように鼻で笑い、取り合わなかった。男性は腹が立ち、ついに殴ってしまった。そのため男性は組を「破門」になってしまった。さらに、そのまま事務所から逃げてしまったため、組から追われるハメになってしまう。組は、「ケジメをとれ」と彼を探し回っているらしい。今さら、兄貴分や組に詫言を入れることもできない。かといって、全身に刺青も入っていて、加えて両手小指もない。今さらカタギにもなれない。そう思った男性は、以前から知っていた駆け込み寺に助けを求めてやってきたのだ。

### 【組織の一員をやめるしかない】

「七首持ってって、その兄貴分の組にカチコミ（殴り込み）でもかけえな」「・・・」こちらからの提案に相談者の男性は言葉を失った。「兄貴分刺して、ムショにでも入れれば逃げられるやろ。ただし、カチコミかける前に自分で警察に『刃物持った男が暴れてます』って通報しとくんやで。そやないと組のやつらに捕まったらムショやなくて東京湾行きや」「あんさん、怖いこといいますな。男性は呆然とこちらの方を見つめている。「怖いことも何もあるかい。今まで散々人に迷惑かけて怖がらせてきていて、ちょっといじめられたら辛抱できへんで兄貴分殴って。地球はお前を中心に回ってるわけやないで。自分に都合のいいことしか考えない、実に短絡的な考えしか持たない男性は、その目線でしかこちらからの言うことが理解できないようだ。今の自分のおかれている立場、過去の自分の所業の結果が今の事態を招いていることがわかっていない。

状況が変わるためにはまず、自分が変わらなければならないのに、何か都合のいい抜け道があるかのようにオレの元にすがってきているのだ。

一つだけいえることは、今の自分は過去の自分の集約であって、誰のせいでもない。他人のせいにしてはいる間は何も変わらないのだ。そうして、自分で何かをしようという意思を持たない人間に対しては、オレは何もしてやることはできない。この男性は結局、南の方に逃げてしまったという噂だけを、しばらくしてから聞いた。

### 【暴力をやめること】

暴力の現場には必ず加害者と被害者がいる。加害者は、行き場のない怒りのはけ口として暴力を使い、被害者は、その暴力を受けることで恐怖心を植え付けられる。加害者は、暴力を振るうことに快感を覚え、被害者は恐怖に支配される。暴力を介在した加害者と被害者の関係が続いていく。加害者も被害者も根本は一緒だ。結局は、両者とも「弱い」から暴力を介在させているにすぎない。



2015年1月24日(土)14:00~16:30 大阪市で「玄秀盛 支援者の集い」を開催します。会場は東天満の株式会社ゴーシュ研究所大阪支店様、参加費は(テキスト代込み)3,000円となります。どなたでも参加できます。(会場の定員まで先着順となります。ご了承ください)

詳細&お申込みは以下のURLからどうぞ!

[https://nippon-kakekomidera.jp/report/2014\\_1112.html](https://nippon-kakekomidera.jp/report/2014_1112.html)